

土用の丑の日？

ソウル支社 稲垣 佐知也

本日（7月27日、原稿執筆時）は日本では土用の丑の日。鰻を食べる日ですね。韓国でも同じような習慣があり、「伏日(ボンナル)」と言います。伏日は毎年7月から8月にかけて3日あり、それぞれ初伏、中伏、末伏と呼ばれています。3回の伏日を合わせて「三伏(サムボツ)」と言うようで、三伏の期間は1年で最も暑い時期であり、暑気払いで滋養食を食べます。

さて、韓国では何を食べていると思いますか？ だいたい、想像がつかかと思いますが、多くにおいて参鶏湯(サムゲタン)を食べます。参鶏湯の説明は不要かと思いますが、若鶏の内蔵を抜き、その中にもち米・栗・ナツメ・高麗人参などを入れて長時間煮込んだ料理で、夏バテ・滋養強壮などに良いとされています。

ソウル支社でも「今日は初伏なので参鶏湯を食べに行こう！」ということになったのですが、時間はまだ11時過ぎ。お腹がすくにはまだまだだな、と思っていたのですが、そうとう待たされるということなので、11時20分頃には会社を出ました。

会社近くのそこそこ有名なお店について、既にほぼ満員。お店のアジュモニ(おばちゃん)も「本日儲けなければいつ儲けるの！」と言わんばかりに張り切っており、回転をよくするためか、「人数が揃ってないと入れないわよ！」と席取りは禁止され、洪々文句を言うおじさんがいたり、活気づいておりました。

さて、我々は人数が揃っており、ちょうど最後の1テーブルが空いていたため問題なく着席。最近、歳のせいか参鶏湯一人前を食べるのが苦しくなっており、パングタン(サムゲタンの半分(パン)なのでパングタンと言います。いつもはこれ食べているのですが)を頼もうとしたら、「今日は参鶏湯のみ！」と言われてしまいました。右から左へ作って出さなければいけないため、わざわざ半分に切らなければいけないパングタンなんて作ってられないのでしょし、黙っていてもお客は殺到するため、単価の高い参鶏湯を売らない手はない、ということなのでしょう…。

無事、参鶏湯を食べ終わり、気力、体力共に英気が養われお店の外に出ると、そこには長蛇の列が。お店は2階にあったのですが、1階に続く階段は待っている人達でごった返しており、お店の外まで列が続いておりました。「この日にはこれをやる！」という「定番」に対するこだわりは韓国の方が強いように感じます。記念日なども好きですね。そういう意味で、日々の行動が分かりやすい、というのも韓国の特徴ではないかと考えました。

なお、韓国でも人気店は行列が出来ます。私は並ぶのが好きでないため、待つことは滅多にしません。実際に入ってみると外れる可能性が高いです。というのは、美味しいから並んでいるのではなく、並んでいるから美味しいであろう、ということが並ぶ理由であるため。そのため、韓国の行列はアテにならない(単なる好みの違いもありますが…)ので、韓国でお店を選ぶ際には見た目の雰囲気ではなく、しっかりと事前情報収集をしましょう。

執筆者略歴：稲垣佐知也

2000年、㈱矢野経済研究所入社。レーザーやLED、光通信用部品、レンズといったオプトロニクス分野、コンデンサ、PCB、水晶デバイスなど電子部品など、エレクトロニクス関連の部品市場に関して一貫して調査研究を実施。近年はリチウムイオン電池を中心にエネルギー関連の調査をメインに担当。